

## かん水による減酸対策で品質の高い不知火生産 － J A 鹿児島きもつきなんぐう地区果樹部会加温不知火部会－

### 経営体の概要

- ◇設立年度：平成14年
- ◇基幹作物：不知火
- ◇経営面積：1.0ha
- ◇農家戸数：5戸

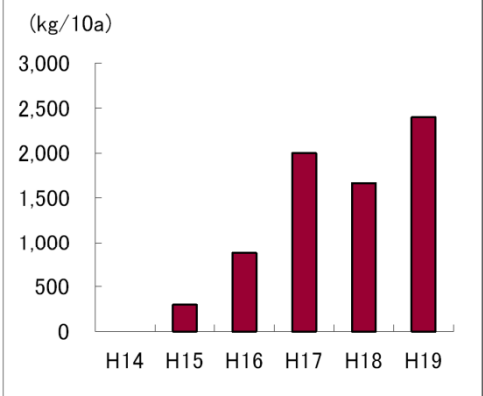
### 取組の経緯と営農転換のポイント等

南隅地区は、露地の温州みかんやハウスミカンが栽培され、特にハウスミカンの県内有数の産地であった。しかし、価格低迷により新たな品目への転換が求められ、食味に優れ、収益性の高い不知火が選定された。不知火は生育前半の十分なかん水により減酸を進めておくことが高品質果実生産のポイントであるため、畑かんの整備が不知火導入の重要な条件であった。このため、畑かんが整備された平成14年に不知火への改植が開始され、その年に4戸で本部会を設立。その後、不知火の導入が順調に進み、生産者の所得向上、後継者の確保に繋がっている。

### 営農改善のポイント

#### ①栽培技術の確立・向上

平成16年から生協との契約販売を開始し、生協禁止農薬を排除した「月別栽培暦」を作成し、部会員へ配布して農薬使用の適正化と栽培管理の徹底を図っている。また、定期的な栽培検討会や他地域の加温不知火生産者を交えた栽培技術検討会を実施し、栽培技術の徹底と生産者の技術研鑽に努めている。不知火は生育期前半に肥料を必要とする柑橘であるため、過剰な施肥によって根を傷める場合がある。このため、肥効調節型肥料を用いた施肥体系を確立するため実証ほ場での検証にも取り組んでいる。



不知火導入からの収量推移

#### ②単収・品質の向上

糖度13度以上、クエン酸1.0以下の高品質果実を生産するため、糖度・クエン酸など時期別に基準値を作成し、部会員による定期的な果実分析を行い、かん水量によるクエン酸値の調整やマルチ被覆による糖度向上を図っている。また、県が奨励する優良品種の導入にも取り組んでいる。



果実分析の様子

#### ③省力化

整備前は渓流水と溜め水を水源としていたため、大雨の時には渓流水が濁ってかん水器具が詰まるなどメンテナンスに長時間を要していた。整備後は、水は濾過器がなくても防除に使用できるため、メンテナンス等の必要が無く、必要な時期に必要なだけかん水が可能となり省力化に繋がっている。

### 事業概要

- 事業種 国営総合農地開発事業
- 関係市 錦江町、南大隅町
- 受益面積 648ha
- 事業期間 昭和61年度～平成14年度
- 事業目的 農地造成、区画整理、畑地かんがい

#### 位置図



#### <問い合わせ先>

九州農政局資源課  
TEL:096-211-9111  
(内線:4662)

(平成20年調査時点)